

平成 27 年 度 自 己 評 価 表 (最 終 評 価)

鳥取県立米子白鳳高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	1 学業に取り組むための「学ぶ意欲」を育てる。 2 「心の優しさ」を大切に、他者と共存する力を育てる。 3 「将来の夢」の実現に挑戦し、社会的自立を果たす姿勢を育てる。	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上 2 豊かな人間性の育成 3 進路指導の充実 4 地域・外部機関との連携
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	--------------------------------------------------------

年 度 当 初				評 価 結 果 (1)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
基礎学力の向上	意欲的な授業への取組	学習習慣を身につけ、意欲的に授業に参加する取組が必要である。	チャイム順守・授業マナーなどきちんとした態度でのぞみ、授業を大切にしていることができる。	・単位修得に向けて、安易な欠席がないようにこまめに声をかける。	こまめに声をかけ、指導した。	B	さらに授業を大切にしている意識を高め、安易に授業を欠席しないように指導していく。
				・欠席、遅刻、早退について、担任への報告を徹底させる。	きちんと報告できる生徒も増えてきた。	B	まだ、十分とは言えないので、継続して取り組んでいく。
				・生徒個々の履修および修得状況等の早期把握と職員間での共有を図る。	課程会議を含め、教員間ですぐに情報交換できる体制ができた。	A	早期把握に努め、授業を大切にしている意識づけを図っていく。
	「わかりやすい授業」の実践	授業において、基礎学力を向上させる工夫が必要である。	生徒の状況に対応した教材開発等を進め、わかりやすい授業、魅力ある授業づくりをすることができる。	・ユニバーサルデザインを意識した授業に取り組む。	それぞれの授業において、様々な工夫がなされている。	B	先進校視察の取組を本校の現状に合わせた取組として導入する。
			・学力向上のための講師派遣事業を活用し、授業改善に取り組む。	学力向上のための授業改善職員研修を実施した。	B	授業公開等により、授業研究を進めて行く。	
			・授業アンケートを利用し、授業改善に取り組む。	7月、1月に授業アンケートを実施し、授業改善に役立てた。	B	授業アンケートに記述欄を設け、生徒の意見を集約し反映させる。	
豊かな人間性の育成	基本的な生活習慣の確立	挨拶、言葉づかいなど基本的な生活習慣を身に付ける取組が必要である。	すすんで挨拶をし、正しい言葉づかいをすることができる。	・挨拶・声かけを積極的に行う。 ・社会人として必要な言葉づかいの指導に心がける。	教員もすっかり日々の声かけを行い、生徒もかなり挨拶ができるようになってきた。	B	継続して声かけ(挨拶)を進んですることが必要である。
				人間関係力の育成	コミュニケーションの促進により、人間関係を築いていく環境づくりが必要である。	クラスが、居心地の良い場所になるように、お互いを思いやる気持ちを育てることができる。	・SHRや清掃の時間、休憩時間など積極的に声かけをして、相談しやすい信頼関係を築く。
	・SC・SSWe r・白鳳サポーターなどと連携を図る。	SC・SSWe r・白鳳サポーターなどと連携して支援にあたっている。	B				各課程会議参加における情報交換により、全員で情報を共有し、迅速な支援につなげる。
	・人権教育LHRの充実を図る。	職員現地研修、定時制生徒対象講演会、講演会をもとにした公開LHRを実施した。	B				人権推進委員会を中心に、生徒それぞれが自らの意識を振り返ることができている取組をする。
	・定通教育充実事業の活用により、コミュニケーションの促進を図る。	様々な活動を通じて、生徒と教員間の信頼関係が深まり、生徒同士の他者理解も進みつつある。	B				コミュニケーションを図り、より自己理解・他者理解が進むように取り組む。
	環境意識の高揚	ゴミの分別や公共施設の利用マナーなどを身に付ける取組が、大切である。	地域の一人としての自覚を持ち、公共施設を利用する上での心構えを理解することができる。				・仲間と協力して掃除に取り組み、美化活動の大切さを理解させる。
				・環境教育講演会、現地学習、環境保全活動などに取り組む。	講演会、施設見学等の各取組が、しっかりと行えた。	B	講演会や環境学習で学んだことを校内美化活動へつなげていく。
			・JR淀江駅の美化と駅利用のマナーアップに努める。	駅巡視、SHR等での啓発により、マナーアップは向上してきている。	B	継続して地域の方と連携し、利用状況の向上に取り組む。	
			・通学路のポイ捨て撲滅に取り組む。	マナーアップ、LHR等を利用し、生徒会執行部、各クラスで通学路の清掃を行い、意識も向上した。	B	生徒たちが自ら意識し、自ら取り組んでいく企画が立案できるようにする。	

年 度 当 初					評 価 結 果 (1)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
進路指導の充実	進路意識の高揚	経済・社会環境や雇用情勢の変化に対応するため、早期から進路に対する意識づけが必要である。	生徒が、進路に対する意識を持ち、個々の適性にあった進路選択をすることができる。	・産業社会と人間、LHR、総合的な学習の時間を活用して進路目標を持たせる。	キャリアアドバイザーによる個別カウンセリングやサポステとの連携による。	B	キャリア教育全体計画に従い、学年に応じた系統的な内容にし、進路意識を高める。
				・上級学校・事業所見学などを実施する。	早期からの進路研究に向け、見学会や各種体験事業等の情報提供に努めた。就職説明会には卒業予定生だけではなく、1、2年生の参加もあり、意識づけにつながった。	A	2学年でも進路講演会や事業所見学を取り入れ、さらに進路意識を高める。
				・進路関連書籍・DVDなどを充実する。	生徒の進路希望や実状に応じた進路教材、資料を確保することができた。	B	進路情報や資料を生徒自身が積極的に活用できるように工夫する。
				・進路指導部、保護者と連携をとりながら、進路保障の実現を図る。	生徒の進路希望や状況等の情報を、細部にわたり保護者と共有しながら指導を行うことができた。また、支援が必要と思われる生徒については、教育相談部、外部関係機関とも連携した指導を行うことができた。	A	支援が必要と思われる生徒について、外部関係機関との連携に時間を要したので、事前の十分な準備と効率的な連携の在り方を検討する。
				・キャリアアドバイザーを活用し、個人面談・指導等を通して、生徒個々の能力・適性を見極めた適切な進路指導を行う。	生徒とのカウンセリング時に、適性検査の結果をわかりやすく説明するなど生徒の自己理解を深める取組ができた。また、基礎学力向上を目指した計算の「学び教室」の指導を試験的に取り組んでいる。	B	本校生徒の現状から、個別指導に重点を置いた指導が有効である。個人面談を充実させ、自己理解・職業理解を深めていく。
進路理解の促進	社会人としての基本的マナーを習得し、進路目標を実現するための取組が必要である。	進路実現のための段階的な内容を理解し、社会人としての実践的なマナーの習得や職業理解を深めることができる。	・社会人講師を招くなど、キャリア教育充実事業の実践的な講座を実施する。	本校卒業生による講演や法律教室等の開催を通して、生徒のキャリア形成力を高めることができた。	B	社会人を招いた実践的な講座の開催により、「社会人に必要なモラルやマナー」や「産業や職業の種類や内容」について学び考える機会をつくる。	
			・定着指導や就職先・進学先開拓を積極的に行い、進路選択の幅を広げ、外部関係機関との連携をはかり、進路相談をより充実させる。	特別な支援を必要とする生徒の就職・進学にあたり、教育相談部や多くの外部関係機関と連携することができた。次年度に向けて、連携の幅を広げることにつながった。	B	外部関係機関に向いたり、講師依頼をしたりと連携をさらに深め、より具体的な職業観や勤労観を育成する。	
地域・外部機関との連携	地域交流と地域資源の活用	体験学習や異世代との交流により、社会とのかかわりを持つことが大切である。	地域における異世代交流を通して、地域理解を深めることができる。	・学校独自事業を活用し、地域の保育園児や高齢者との交流を図る。	「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」、家庭科や農業科の授業を中心に実施している。	B	各科目の特徴を出すことができるように、年間を通した継続的な取組とする。
			・定通教育充実事業を活用し、授業に地域の伝統芸能などを取り入れることにより、地域理解を深める。	「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」、家庭科、農業科や学校設定科目の授業を中心に実施している。	B	地域との交流を通して、地域の方の意見を取り入れ、地域資源を有効活用する。	
	地域への発信	本校の取組を地域の方に理解され、協力していただくことが求められる。	本校の教育活動内容が、地域の方に理解されることができる。	・学校Webページと学習成果発表会などで、積極的に地域へ情報発信する。	ホームページのシステムを変更し、情報をより提示しやすくした。	B	ホームページ担当の総務係だけではなく、学校行事などの業務遂行者が、その都度速やかに掲載できる体制を整える。

評価基準 A: 目標を達成している B: ほぼ計画どおり推進している C: 取組がやや遅れている D: 一層の取組が必要である E: 目標・方策の見直しが必要である